

日本化学会第 88 春季年会(2008)講演申込要項

第 88 春季年会実行委員会

会 期	平成 20 年 3 月 26 日 (水) 午後～ 3 月 30 日 (日)
会 場	立教大学池袋キャンパスおよび立教池袋中学校・高等学校 (東京都豊島区西池袋)
実行委員長	渡辺 正 (東京大学生産技術研究所・教授)
内 容	アカデミック・プログラム (AP: 一般研究発表) (口頭・ポスター) アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) (口頭・ポスター) 特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・総会・表彰式・懇親会・市民公開講座・その他委員会企画ほか
重要な日程	講演申込期間 平成 19 年 11 月 21 日～ 12 月 4 日 20 時 予稿原稿提出期間 平成 20 年 1 月 10 日頃～ 1 月 23 日 20 時 参加予約申込期間 平成 20 年 2 月 1 日～ 2 月 27 日 17 時 プログラム公開日 平成 20 年 2 月下旬 講演予稿集発行日 平成 20 年 3 月 12 日 (予定) ※ CD-ROM・冊子・WEB すべて
問合せ先	日本化学会 企画部 年会係 〒 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 TEL: 03-3292-6163 FAX: 03-3292-6318 E-mail: nenkai-help@chemistry.or.jp URL: http://csj.jp/nenkai/

標記年会の研究発表を以下のように募集いたします。講演申込要項は、毎回見直しが行われ変更されていますので、必ずご確認ください。本年会における留意点は以下のとおりです。

- ・会期が例年と比べ半日長くなっています (4 日半)。
- ・発表機材は液晶プロジェクターのみとします。
- ・予稿原稿提出方法はオンライン投稿のみとします。

1 講演申込について

1.1 はじめに

- ・アカデミック・プログラムの講演は未発表の内容に限ります。
- ・アドバンスト・テクノロジー・プログラムは既発表のもの、特許化したもの、製品化したものも発表可とします。また知的財産戦略や特許化の関連から化合物名を公表できない場合には「化合物 A、B」として発表することも可とします。

1.2 申込期間

平成 19 年 11 月 21 日～ 12 月 4 日 20 時

※講演申込完了時に発行される講演申込受付番号とパスワードを使用し、申込内容の訂正、削除することができます。訂正期間は以下のとおりです。

平成 19 年 11 月 21 日～ 12 月 5 日 20 時

1.3 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) 上の講演申込フォームからお申込下さい。なお講演申込フォームを使用するにはパスワードが必要です (パスワード:nenkai88)。講演申込フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際ですと対応できかねる場合もございます。

1.4 申込完了の確認

講演申込が完了すると、講演 1 件ごとに講演申込受付番号とパスワードを発行します。また、申込内容を申込時に

入力した E-mail アドレスに通知します。申込者は講演申込受付番号が発行されていることと通知が来ていることを必ず確認して下さい。通知未着の場合には 12 月 6 日までに必ず事務局まで E-mail にてお問合せ下さい。期限後のお問合せには対応できませんのでご注意下さい。

1.5 講演者の資格

講演申込者および講演者 (登壇者) は、講演申込時点において日本化学会会員 (教育会員も含む) であることが必要です。未入会の方は講演申込の前に Web 上で入会申込手続きを行って下さい。連名者はこの限りではありません。また講演申込は、会員 1 人につき 1 件です。複数の講演の講演申込者であることが明らかになった場合には、訂正をしていただくこととなりますので、ご注意下さい。

なお、講演者 (登壇者) および本年会に参加される方は、全員参加登録 (詳細は「化学と工業」1 月号参照) が必要です。

アドバンスト・テクノロジー・プログラムの場合、講演申込者、講演者 (登壇者) および連名者は、日本化学会会員でなくとも結構です。ただし講演者 (登壇者) および参加者は、全員参加登録 (詳細は「化学と工業」1 月号参照) が必要です。

1.6 発表形式と講演時間

アカデミック・プログラム

A 講演 10 分 (講演 7 分・討論 2 分・交代 1 分)

B 講演*1 20 分 (講演 15 分・討論 4 分・交代 1 分)

ポスター 45分

アドバンスト・テクノロジー・プログラム^{*2}

C講演 20分（講演15分・討論4分・交代1分）

D講演 30分（講演25分・討論4分・交代1分）

ポスター 45分～60分（予定）^{*3}

*1…B講演の発表資格は正会員もしくは博士後期課程の学生会員とする。

*2…セッションにより募集する発表形式が異なります。詳細は3講演申込分類をご覧ください。

*3…セッションにより異なります。

1.7 発表言語

すべての部門で英語での発表が可能です。

1.8 発表機材

口頭講演

すべての会場に液晶プロジェクター・RGBケーブル・PC切替機を用意します。

講演者はPCを持参して下さい。またトラブル対策としてバックアップファイル（ウイルスのチェックおよびOS互換性に関してチェック済みであることをUSBメモリで用意下さい）。

ポスター

ポスターボード（縦180cm×横90cm〔予定〕）と画鋸を用意します。

1.9 採否の決定

申込みいただいた講演の採否およびプログラム編成（「口頭（A講演・B講演もしくはC講演・D講演）/ポスター」の発表形式、発表部門、日時など）は第88春季年会実行委員会に一任とします（希望と異なる場合もあります）。

12月中旬に各部門別にプログラム編成を行いますので、申込者はこの時期、プログラム編成委員からの問い合わせになるべく対応できるようご配慮下さい。

1.10 講演番号の通知

1月上旬に郵便で申込者宛に通知します。通知未着の場合には平成20年1月7日～11日の間に必ず事務局までE-mailにてお問い合わせ下さい。予稿原稿提出には講演番号が必要です。

1.11 予稿原稿の作成と提出

2講演予稿原稿（1012ページ）の項目をご覧ください。

1.12 講演申込の取消

講演申込後に発表を取り消すと、プログラム編成に支障をきたすだけでなく、前後の講演者に対しても迷惑がかかります。社内審査がある場合は、早めに手続きを開始し、必ず発表許可を取ってから申し込んで下さい。また、学生が申込者の場合は、講演申込内容に関して指導教員の確認を受けてから申し込んで下さい。

理由の如何にかかわらず、講演予稿原稿の提出後の差し替え、取り下げは認められません。

1.13 講演申込内容の公表

採択された講演申込内容は、連絡先に関する部分を除き、講演プログラムやデータベースの形で下記により公開・無償配布します。なお、公開したプログラムに変更が生じた場合は春季年会ウェブサイトにて告知します。

・講演プログラム 平成20年2月下旬
 ・プログラム検索（携帯サイト） 平成20年3月上旬
 ・日本化学会研究者データベース 会期終了後
 ・JST JDreamII 会期終了後

1.14 各種講演賞

春季年会では「学生講演賞」・「優秀講演賞（学術）」・「優秀講演賞（産業）」の3種類の講演賞を設けております。各賞の対象者・発表形式・対象部門等は以下のとおりです。是非この機会に奮って応募下さい。

学生講演賞

対象者 博士後期課程の学生会員
 発表形式 口頭B講演
 対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
 審査申込 上記条件を満たす講演すべてが対象となるため申込の必要はありません。

授与委員会 第88春季年会実行委員会

優秀講演賞（学術）

対象者 平成20年4月1日時点で満36歳に達していない正会員

発表形式 口頭B講演
 対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
 審査申込 講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 第88春季年会実行委員会

優秀講演賞（産業）

対象者 講演申込時に40歳以下の若手講演発表者
 発表形式 口頭A講演・口頭B講演・口頭C講演・口頭D講演

対象部門 12.高分子・15.材料化学・16.材料の機能
 17.材料の応用・18.資源利用化学・ATP（材料系）…T1～T6

審査申込 講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 日本化学会産学交流委員会

なお、従来の優秀講演賞および講演奨励賞は名称を優秀講演賞（学術）、優秀講演賞（産業）と変更しておりますが、応募条件および選考基準については変更していません。

優秀講演賞（産業）については1019ページに別途お知らせがありますのでそちらをご覧ください。

1.15 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では、春季年会の活性化を目的として、我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを昨年に引き続き、下記7部門で開催することになりました。

6. 錯体化学・有機金属化学
 8G. 有機電子移動化学
 9. 天然物化学
 11. 分析化学
 14. コロイド・界面化学
 15. 材料化学
 21. 理論化学・情報化学・計算化学

2 講演予稿原稿

2.1 提出期間

平成20年1月10日頃～1月23日20時

締切期日までに講演予稿原稿を提出しない場合は講演を中止したものとしますのでご注意ください。

2.2 提出方法

講演予稿原稿をPDFファイルで作成の上、春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) 上の予稿原稿投稿フォームから提出して下さい。提出の際には**パスワード**、**講演申込受付番号**、**講演番号**が必要です(パスワード:nenkai88)。フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際ですと対応できかねる場合もございます。

受理後の原稿の訂正はできません。また、提出された原稿は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

2.3 作成方法

春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) 上で公開するテンプレート(雛型)をお使いいただき、PDFファイルを作成して下さい。

講演予稿原稿には和文・英文の演題・研究場所・発表者氏名および和文(または英文)の本文を入れ、作成して下さい。予稿集はモノクロで印刷され、1講演あたりのサイズはB5判の1/4です。図表・写真等を入れる場合には、この点を考慮して下さい。

詳細は講演番号通知に同封の「**予稿原稿作成要項**」、もしくは春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) をご覧下さい。

3 講演申込分類

3.1 アカデミック・プログラム

講演申込分類は年会ごとに見直しを行っております。講演申込分類の誤りはプログラム編成ひいては会期中の運営にも多大な支障をきたしますので必ずご確認下さい。

1. 化学教育・化学史

A. 初等中等教育(実践例など)、B. 大学教育(実践例など)、C. 化学史・化学技術史、D. 化学入試問題の評価、E. その他

2. 物理化学—構造

A. 電子回折・マイクロ波、B. 赤外・ラマン、C. 紫外・可視、D. 電子分光、E. 電子状態、F. 磁気共鳴、G. 結晶構造、H. 固体表面、I. その他

3. 物理化学—物性

A. 気体、B. 純液体、C. 液晶、D. 固体(半導体、合成金属、超電導体、磁性体を含む)、E. 溶液、F. 相平衡・相転移、G. クラスタ・ナノチューブ・フラーレン、H. その他

4. 物理化学—反応

A. 気相反応機構・気相反応速度、B. クラスタ、C. 光化学反応(液相・固相・表面・膜)、D. スピン化学・磁場効果、E. 電子移動・エネルギー移動、F. 放射線化学、G. 電気化学、H. 非平衡系、I. その他

5. 無機化学

A. 無機化学(1. 反応、2. 合成、3. 構造・物性)、B. 固体化学(1. クラスタ化合物・包接化合物・ゼオライト化合物、2. 低次元構造化合物、3. 三次元構造化合物、4. 無定形物質)、C. 溶液化学、D. 放射・核化学、E. 希土類化合物、F. その他

6. 錯体化学・有機金属化学(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)

A. 錯体化学(1. 合成、2. 構造、3. 反応、4. 物性、5. その他)、B. 有機金属化学(1. 合成、2. 構造、3. 反応、4. 触媒、5. 有機合成、6. その他)、C. 生物無機化学、D. 材料関連化学、E. その他

7. 有機化学(主として物理有機化学的なもの)

A. 構造と物性(1. 分子構造、2. 立体化学、3. π 共役系、4. 物性、5. 分子認識、6. その他)、B. 反応機構(1. 反応性中間体、2. イオン反応・加溶媒分解など、3. ラジカル・電子移動・光化学反応など、4. 理論計算、5. その他)、C. その他

8. 有機化学—反応と合成(一般的反応と合成に関する研究)

A. 脂肪族・脂環式化合物、B. 芳香族化合物、C. 複素環化合物、D. ヘテロ原子化合物、E. 有機金属化合物(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)、F. 有機光化学、G. 有機電子移動化学、H. ハイスループット合成(1. コンビケム・固相合成、2. 新反応場(フロー法、マイクロ波、固定化法、反応媒体))、I. その他

9. 天然物化学(構造、合成、生合成など)

A. 脂肪酸関連化合物、ポリフェノール(ポリ環状エーテル、マクロリド、エンジン系化合物も含む)、B. テルペン、ステロイド、C. アルカロイド、D. 糖、E. アミノ酸、ペプチド、F. コンビケム・固相合成、G. その他

10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー

A. 機能性低分子・分子認識(錯体、ポルフィリン、補酵素、イオン、ラジカルなど)、B. 核酸(モデル化合物を含む)、C. タンパク質・酵素(タンパク質工学、酵素工学、ペプチド、モデル化合物を含む)、D. 糖(糖鎖工学、モデル化合物を含む)、E. 脂質・生体膜(モデル化合物、モデル膜を含む)、F. 細胞(バイオプロセス、細胞工学、代謝工学、培養工学を含む)、G. 生命情報(ゲノム、遺伝情報発現など)、H. 環境バイオテクノロジー・食品バイオテクノロジー・バイオセンサー、I. メディカルバイオテクノロジー、J. 生体触媒反応、K. その他

11. 分析化学

A. 原子・分子スペクトル分析、B. レーザー分光分析(フォトサーマル、蛍光、時間分解、顕微分光など)、C. X線分析、D. センサー、E. 電気化学分析、F. 質量分析、G. フローインジェクション分析(FIA)、H. 液体クロマトグラフィー(LC)、I. ガスクロマトグラフィー(GC)、J. 電気泳動分析、K. マイクロ・ナノ分析(マイクロチップ・ウェル、超微粒子、単一分子検出など)、L. 分離・抽出・分析試薬の設計、M. プローブ顕微鏡、N. 界面分析、O. 標準試料・標準化、P. ケモメトリックス、データ解析法、Q. 環境・地球化学関連分析、R. 臨床・医療・法医学分析、S. バイオ分析(核酸、遺伝子、タンパク質、細胞、イメージングなど)、T. 食品・医薬品分析、U. 材

料分析・材料解析（表面分析を含む）、V. 有機・無機・金属・複合材料分析など、X. その他

12. 高分子

A. 高分子合成（1. ラジカル、2. イオン、3. 配位触媒、4. 開環、5. 重縮合・重付加、6. ブロック・グラフト共重合、7. その他）、B. 高分子反応、C. 高分子構造・物性、D. 機能性高分子（1. 高分子触媒、2. 電気・電子・磁性、3. 光、4. 情報・記録、5. バイオメディカル、6. 膜・分離、7. ゲル、8. その他）、E. 高性能高分子、F. 生体高分子、G. 高分子工業、H. その他

13. 触媒

A. 表面・吸着、B. 構造・物性・計算、C. 調製方法、D. 水素化・脱水素、E. 分解・改質・脱硫等、F. 酸化、G. 酸・塩基触媒、H. ゼオライト、I. メソポーラス物質、J. 環境触媒、K. 光触媒、L. 錯体・クラスター、M. 有機合成・重合、N. その他

14. コロイド・界面化学

A. 微粒子分散系（1. サスペンション、2. 微粒子・ナノ粒子、3. 高分子コロイド、4. 界面電気現象、5. レオロジー、6. その他）、B. 分子集合体（1. ミセル、2. 高分子溶液、3. 超分子・高次分子集合体、4. 液晶・ゲル、5. エマルション、6. その他）、C. 組織化膜（1. 単分子膜・LB膜、2. 自己組織化膜、3. 二分子膜（ベシクル・リポソーム等）、4. 界面物性（気-液、液-液）、5. その他）、D. 固体表面・界面（1. 表面構造と物性・機能、2. 吸着と触媒、3. 表面力・トライボロジー、4. マイクロファブリケーションとナノテクノロジー、5. その他）、E. 新領域

15. 材料化学

A. 製造法・組成・形態・物性（1. 製造法（ゾル・ゲル法など）、2. 無機材料、3. 有機材料・複合材料、4. 高分子材料、5. 炭素、6. ガラス・アモルファス物質、7. 薄膜、8. 微粒子、9. その他（金属材料など上記以外の項目）

16. 材料の機能

A. 生体機能（1. 生体適合、2. DDS、3. リポソーム、4. 酵素、5. その他）、B. 光化学機能（1. フォトクロミズム、2. 光化学増幅、3. 光硬化・分解、4. その他）、C. エネルギー変換機能（1. 光電・圧電・焦電、2. 化学的変換、3. その他）、D. 電子・磁気機能（1. 超伝導、2. 導電、3. 半導、4. 絶縁、5. 磁気、6. 光磁気、7. その他）、E. 光学機能（1. 偏光、2. 変調・増幅、3. 非線形、4. その他）、F. 分離機能（1. 輸送、2. 吸着、3. 膜、4. イオン交換、5. 包接、6. 光学分割、7. その他）、G. その他

17. 材料の応用

A. センサー（1. 温度・湿度、2. 物理量（圧力・速度など）、3. 成分、4. バイオセンサ、5. その他）、B. 記録・記憶（1. カラーハードコピー、2. 写真、3. 磁気記録、4. 光記録、5. 印刷、6. その他）、C. 表示（1. CRT、2. 液晶、3. プラズマ、4. EC、5. EL、6. その他）、D. 電子部品関連（1. 半導体、2. レジスト、3. 封止、4. 接続・実装、5. その他）、E. 光学部材（1. レンズ、2. ファイバー、3. 非線形光学部材、4. その他）、F. 電池・エネルギー（1. 一次電池、2. 二次電池、3. 太陽電池、4. 燃料電池、5. その他電池、6. 水素吸蔵合金、7. その他）、G.

分離部材（1. 吸水ゲル、2. イオン交換、3. 選択透過膜、4. その他）、H. 染料・塗料・インキ（1. 光硬化、2. キュアリング、3. 機能性色素、4. 分散、5. 光造型、6. その他）、I. 接着剤・界面活性剤（1. ナノ粒子、2. 自己組織化膜、3. 表面・界面、4. 接着・粘着、5. その他）、J. ライフサイエンス、K. 医薬・農業、L. 環境材料（1. リサイクル、2. エコロジー、3. 環境調和、4. 劣化、5. 安定化、6. その他）、M. 高性能材料（1. ハイブリッド、2. アロイ、3. ブレンド、4. ゾルゲル、5. 耐熱難燃性材料、6. 高強度高弾性材料、7. その他）、N. その他

18. 資源利用化学

A. 石油（1. 石油化学、2. 石油精製、3. アップグレーディング、4. 転換・分解、5. 反応・触媒、6. その他）、B. 石炭（1. 石炭化学、2. 石炭液化、3. 石炭ガス化、4. コールタール化学、5. 炭素材料、6. 分離・利用、7. 反応・触媒、8. その他）、C. ガス化学（1. 天然ガス化学、2. 合成ガス化学、3. 反応・触媒、4. その他）、D. 環境資源化学（1. CO₂捕捉、2. CO₂転換、3. 反応・触媒、4. その他）、E. 再生可能資源化学（1. バイオマス、2. マリーナバイオ、3. 回収・再利用、4. 廃プラスチックの再資源化、5. その他）、F. 海洋資源化学（1. 海水溶存資源、2. 海底資源、3. その他）、G. 鉱物資源化学（1. 金属資源、2. 非金属資源、3. その他）、H. 資源開発・管理（1. 分布調査、2. 保護、3. 利用、4. 回収、5. 省資源、6. その他）、I. その他

19. エネルギー

A. エネルギー変換（1. 電池、2. 電解、3. 放電、4. プラズマ、5. 光電気化学、6. 溶融塩、7. 固体電解質、8. その他）、B. エネルギー貯蔵（1. 相変化、2. 水素貯蔵、3. その他）、C. 省エネルギー（1. 腐食防食、2. その他）、D. 光化学（1. 光合成、2. レーザー、3. その他）、E. 放射線化学・核化学、F. 水素エネルギー、G. 高温化学・燃焼・火薬、H. 超音波化学、I. その他

20. 環境・グリーンケミストリー、地球・宇宙化学

A. 地球化学・宇宙化学、B. 大気環境化学（1. 環境動態、2. 環境保全技術、3. 環境分析、4. その他）、C. 水質環境化学（1. ～4. は上と同じ）、D. 廃棄物・土壌環境化学（1. ～4. は上と同じ）、E. 安全化学、F. グリーンケミストリー、G. 地球環境への材料の応用（1. 生分解・光分解、2. リサイクル、3. 海洋・砂漠・オゾン、4. その他）、H. 環境調和、I. 光触媒（1. 酸化還元反応、2. 親水化反応、3. 水分解、4. 環境改善、5. その他）、J. その他

21. 理論化学・情報化学・計算化学

A. 電子状態、B. 化学反応、C. ダイナミクス、D. バイオ、E. 材料、F. シミュレーション、G. 数理学、H. 化学情報、I. その他

22. 有機結晶

A. 結晶の構造と物性、B. 分子配列制御、C. 分子認識、D. 動的分子挙動、E. 結晶中の反応、F. 結晶の機能と物性、G. その他

3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)

今回の討論主題は「未来社会を支える化学技術：材料化学、バイオケミカルテクノロジー」で、以下 T1 から T8 までの 8 つのセッションを企画しています。

セッションにより開催予定日および募集する発表形式が異なりますのでご注意ください。

開催日

材料系 (T1～T6) 3月26日・27日

バイオ系 (T7・T8) 3月28日・29日

募集する発表形式

材料系 (T1～T6) 口頭講演*・ポスター

バイオ系 (T7・T8) ポスターのみ

*開催日が限られているため募集件数が多い場合には口頭からポスターに移っていただくこともありますので、あらかじめご了承下さい。

3.2.1 材料系 (3月26日・27日開催)

T1. 超ファインパターン形成技術・材料の最前線

A. EUV リソグラフィ、B. ナノインプリント、C. その他
セッションオーガナイザー：田川精一 (阪大産研・教授)、松井真二 (兵庫県大高度産業科学技術研・教授)

豊かな国民生活を創出する高度情報通信社会のハード面は、驚異的な発展を続ける半導体デバイスにより支えられている。現在、半導体デバイスの量産プロセスは、ArF リソグラフィから液浸 ArF リソグラフィへ展開し、その後は究極的なリソグラフィと期待される「EUV リソグラフィ」へと引き継がれるものと考えられている。また、多様化する応用分野へ対応する超ファインパターン形成技術として「ナノインプリント」等の新しい技術が発展してきている。

「EUV リソグラフィ」のセッションでは、「超ファインパターン形成技術・材料の最前線」の全体像を材料メーカーや大学の研究者にもわかりやすく概説し、ArF リソグラフィや EB リソグラフィにも共通する基礎的なコンセプトや計測手段等も含め系統的に紹介し、究極の半導体デバイスの量産に必要な材料・プロセスについて幅広く議論する場を提供したい。

「ナノインプリント」のセッションでは、半導体デバイスの量産プロセスとは異なる超ファインパターン形成技術・材料の技術の概要とナノインプリントが期待される幅広い応用例について紹介する。特に、ナノインプリント材料・プロセスの課題と研究開発の最前線、商品化が始まった装置、実際に使われている利用例等を紹介し、本分野の現状と将来について活発に議論する場を提供したい。

基調講演

- ・ EUV リソグラフィの現状と将来展望 (仮題) (半導体先端テクノロジーズ・取締役第三研究部長) 森 一朗
- ・ ナノインプリント技術最前線 (兵庫県大高度産業科学技術研・教授) 松井真二

招待講演

- ・ 高性能光機能性分子材料 (仮題) (神奈川大工・教授) 西久保忠臣
- ・ EUV 光源・露光装置の開発状況と今後の展望 (仮題) (極端紫外線露光システム技術開発機構・研究企画部長/研究部長) 阿部直道

- ・ ナノインプリントにおける樹脂成型過程と求められる樹脂特性 (阪府大院工・教授) 平井義彦
- ・ 光ナノインプリントによるファインパターン形成 (産総研先進製造プロセス) 廣島 洋

T2. ディスプレイ用材料の開発最前線

A. フラットパネルディスプレイ、B. OLED、C. 電子ペーパー、D. その他

セッションオーガナイザー：下平美文 (静岡大院創造科学技術研究部・教授)、時任静士 (NHK 放送技研材料・デバイス部門有機フォトンクス材料グループ・主任研究員)、深瀬康司 (富士ゼロックス・研究本部フェロー)

ディスプレイに関する技術革新は著しく、ディスプレイ市場の構造は激しく変わりつつある。中でも液晶ディスプレイ (LCD)、プラズマディスプレイ (PDP) などのフラットパネルディスプレイは、中核の商品として市場拡大を続けている。さらに、次世代 FPD として有機 EL (OLED) などの研究開発も活発に行われ、新しい商品が期待されている。また、従来の紙媒体の代替として、また曲げられるディスプレイとして「電子ペーパー」「フレキシブルディスプレイ」の研究も活発に実施され、様々な方式が提案され、一部は製品として既に上市されるに至っている。本セッションでは、フラットパネルディスプレイ (LCD、PDP、FED など)、OLED、電子ペーパーの 3 つのサブセッションを設け、各ディスプレイの現状と技術課題、さらにそれらを支えるデバイスや部材、素材である各種の有機、無機、高分子材料の最新技術などの動向を、招待講演、依頼講演にて発表していただき、討論する。革新的な技術の創生に向けた議論の場を提供すべく、新技術の芽となるものから実用技術の最新動向まで、広くテーマを募集する。

基調講演

- ・ 20年の有機 EL 研究を振り返って (仮題) (九大先導研・教授) 筒井哲夫

招待講演

- ・ FPD 全般に渡る、高品質化技術動向 (仮題) (NHK 放送技研材料・デバイス部門・部長) 栗田泰市郎
- ・ フィルターレス LCD (仮題) (IBM 東京基礎研) 山田文明
- ・ 液晶高速化 (仮題) (メルク化成成品事業部門・マネージャー) 一之瀬秀男
- ・ FED 技術開発動向 (仮題) (阪大極限量子科学研セ・教授) 高井幹夫
- ・ 有機 EL テレビの大型化を実現する技術 (仮題) (ソニー・ディスプレイデバイス開発本部) 山田二郎
- ・ 有機 EL 開発の海外動向 (仮題) (技術コンサルタント) 當摩照夫
- ・ 紙、ディスプレイからその先へ、電子ペーパー新市場開拓のための条件とは?～電子ペーパーが第三のメディアになるためには～ (リコー社会環境本部環境経営企画室) 服部 仁
- ・ 電子ペーパーとリライタブル記録の最新動向 (リコーサーマルメディアカンパニー開発セ) 堀田吉彦
- ・ ナノファブ리케이션と細胞転写技術 (仮題) (大日本印刷研究開発セ・バイオマテリアル研・所長) 〇高橋

洋一・奈良真佐美

T3. エネルギー・環境材料の開発最前線

A. 次世代蓄電技術 (1. リチウム電池、2. 電池一般、3. キャパシター)、B. 燃料電池、C. 水素製造材料、D. 有機系および新コンセプト太陽電池、E. その他

セッションオーガナイザー：井手本 康 (東理大理工・准教授)、佐藤智洋 (三菱化学科学技術研究センター電池材料研・主席研究員)、中野義彦 (東芝研究開発セ・主任研究員)、門間聰之 (早大理工・准教授)、小堀良浩 (新日本石油水素新エネ研・プリンシパルリサーチャー)、吉田直樹 (旭硝子中央研・主幹)、太田健一郎 (横国大院工・教授)、寺田 秀 (三菱化学科学技術研究センター固体照明プロジェクト・主席研究員)、瀬川浩司 (東大先端研・教授)、中根堅次 (住友化学筑波研・主席研究員)

本セッションは、「エネルギー」と「環境」をキーワードに、「次世代蓄電技術」、「燃料電池」、「水素製造材料」、「有機系および新コンセプト太陽電池」の4つのサブセッションを設け、幅広くいろいろな材料やシステムについて議論を行う。

現在、急速なモバイル機器の高性能・高機能化等による電力消費量の増大や環境負荷の低減などの理由から、新しい高性能のエネルギー貯蔵・変換デバイスが求められており、研究開発が盛んに行われている。また、アプリケーションの多様化に伴い、用途に適した各種エネルギー貯蔵・変換デバイスが必要とされている。そこで、本セッションでは高容量・高出力・長寿命・高安全性をキーワードに、蓄電素子およびその材料技術や、燃料電池、太陽電池といったクリーンな発電技術に関する最近の進展を幅広く議論し、企業間の情報交換、あるいは産学連携のきっかけとなるような発表の場を提供する予定である。

一方、水素貯蔵材料や水蒸気改質触媒など水素エネルギー利用に必要な各種材料の現状とさらなる技術展開についても議論する予定である。

基調・招待講演はこの分野のリーダー的存在の方々、依頼講演は第一線で活躍されているの方々にお願ひし、活発な討論を行いたいと考えているので、企業、大学、研究所からの多くの参加と一般講演での発表を期待している。

基調講演

- ・次世代蓄電技術 (産総研) 境 哲男
- ・燃料電池開発の現状と展望 (横国大院工・教授) 太田健一郎
- ・水素エネルギー実用化へのトレンド (エネルギー総合工学研・研究顧問) 福田健三

招待講演

- ・リチウムイオン電池用の難燃性電解質の設計 (山口大工・教授) 森田昌行
- ・急速充電電池 (東芝研究開発セ・主幹研究員) 高見則雄
- ・自動車電源用リチウムイオンキャパシタの開発 (富士重工スバル技術研・主査) 羽藤之規
- ・固体酸化物形燃料電池の最近の進展 (産総研エネルギー技術・上席研究員) 横川晴美
- ・固体高分子形燃料電池の耐久性向上に向けて (同志社大

工・教授) 稲葉 稔

- ・炭化水素系電解質膜の構造と機能の関係 (上智大理工・教授) 陸川政弘
- ・固体高分子形燃料電池用電極触媒の開発状況 (田中貴金属工業・プロジェクトリーダー) 多田智之
- ・水素貯蔵材料の研究の現状と展望 (産総研エネルギー技術・主幹研究員) 秋葉悦男
- ・水蒸気改質による水素製造のための触媒材料 (工学院大工・教授) 五十嵐 哲
- ・半導体量子ナノ構造太陽電池の現状 (仮題) (筑波大理工・准教授) 岡田至崇
- ・高性能色素増感太陽電池モジュールの開発 (仮題) (ソニーマテリアル研・係長) 諸岡正浩

T4. 光学材料の開発最前線

A. 有機系光学材料、B. 無機系光学材料、C. その他
セッションオーガナイザー：戒能俊邦 (東北大多元研・教授)、横山士吉 (九大先導研・教授)、西井準治 (産総研光技術・主幹研究員)

光学材料開発の進展は近年目覚ましいものがあり、光変調素子、光スイッチ素子、受・発光素子、光ファイバ、光導波路、ディスプレイ、情報処理用分子素子など、実用化に向けた開発とともに、これらの高性能化に向けた研究開発が進められている。この背景には、マルチメディア社会の進展に対応するため、光を用いた、あるいは光と電気と併用した各種信号の伝送・処理の必要性が高まっていることがある。これらの実用化のために有機・高分子材料から無機材料、さらには有機・無機ハイブリッド材料が広く検討されており、またバルクでの光学特性からナノレベルでの光学特性の活用が図られている。さらに近年、フォトニクス結晶に関する研究が進み、注目を集めている。

本セッションではこのような広い意味での情報伝送・処理用光学材料・電気光学材料について、最先端の研究開発を行っている方々の招待講演、依頼講演をもとに、本分野の現状と将来について議論できる場を提供する。

基調講演

- ・アモルファス有機フォトニクス材料の研究展開 (仮題) (福井工大工・教授) 城田靖彦
- ・無機材料の革新的光・電子機能発現への期待 (仮題) (東工大フロンティア創造共同研究セ・教授) 細野秀雄

招待講演

- ・高分子微細加工による光アクティブ・フォトニック結晶 (仮題) (九大先導研・教授) 横山士吉
- ・フェムト秒レーザー加工と高分子デバイス応用への展望 (仮題) (北大電子研・教授) 三澤弘明
- ・共役系高分子の次世代光材料への期待 (仮題) (京大院工・教授) 赤木和夫
- ・導電性高分子材料のエレクトロニクスおよびフォトニクス性能 (仮題) (東工大資源研・教授) 山本隆一
- ・次世代 FTTH 構築用ポリマー光回路の研究展開 (仮題) (工学院大・教授) 伊藤雄三
- ・ポリマー光回路における評価技術と規格化 (仮題) (NTT フォトニクス研・主幹研究員) 小池潤也

- ・一次元フォトニック結晶構造共振器によるレーザー発振 (仮題) (慶應大理工・教授) 梅垣真祐
- ・ナノレベル電子セラミックス低温成形と機能集積 (仮題) (産総研先進製造プロセス・研究グループ長) 明渡 純
- ・次世代フォトニクス材料・素子化技術 (仮題) (旭硝子中央研・主幹研究員) 杉本直樹
- ・有機無機ハイブリッド材料の開発と光機能発現 (京大化研・准教授) 高橋雅英

T5. プリント・ストレージ用材料の開発最前線

A. インクジェット材料、B. 電子写真材料、C. 光ストレージ材料、D. その他

セッションオーガナイザー：西村克彦 (キヤノン電子写真技術開発セ・主席研究員)、志村 努 (東大生産研・教授)、ほか1名を予定

オンデマンドデジタル印刷の有力候補である電子写真の画像形成技術、写真や画像出力からさらにバイオ分野や産業用途に向けたインクジェットプリンティング技術、ホログラフィック技術に代表される3次元大容量ストレージ記録技術を市場展開していくためには、いわゆる「死の谷」を越えなくてはならない段階である。材料の革新、プロセスの革新や導入も含めて、新たなアプリケーションに向けた技術開発等の最先端の記録技術が求められている。本セッションでは記録材料技術の基礎研究から製品化に至るまでの幅広い技術に関して、招待講演、依頼講演を元に、本技術分野の将来について議論を行いたい。

基調講演

- ・電子写真の可能性と展望 (仮題) (リコー研究開発本部・理事技師長) 平倉浩治
- ・高速デジタルプリンティングの開発動向と技術課題 (仮題) 講演者未定
- ・光記録技術の新たな応用と開発動向 (仮題) (リコー研究開発本部) 横森 清

招待講演

- ・露光/帯電技術の高速化とデバイス・材料技術 (仮題) 講演者未定
- ・高速現象技術と材料技術 (仮題) 講演者未定
- ・定着器の高速化及び材料技術 (仮題) 講演者未定
- ・コアキシャル方式ホログラムの記録技術 (仮題) (ソニーコーポレート R&D コアテクノロジー開発本部テラバイトメモリー開発部・総括部長) 渡邊健次郎
- ・ホログラフィックメモリー記録材料の標準評価法 (仮題) (東大生産研・教授) 志村 努

T6. 未来材料

A. 先端有機・無機ハイブリッド材料、B. 先端ナノ材料・先端機能無機材料、C. その他

セッションオーガナイザー：平尾一之 (京大院工・教授)、中條善樹 (京大院工・教授)

本セッションでは、「先端有機・無機ハイブリッド材料」および「先端ナノ材料・先端機能無機材料」をキーワードとして、先端基礎研究から派生した実用化研究の根幹を成す先導材料を「未来材料」という括りで構成する。本セッ

ションは「未来材料」ではあるが、実用化を目指した研究開発テーマを対象とし、異分野の研究、技術の融合がますます期待される領域を包括している。したがって、日本の将来の化学産業を支える産学連携テーマとしては最も重要なセッションのひとつであるとも言えよう。本セッションでは、最先端の研究開発を行っている方々の招待講演、依頼講演を含め、現状と将来について議論できる場を提供する。

基調講演

- ・有機・無機ハイブリッド材料開発における最先端技術と将来展望 (東理大理工・教授) 阿部芳首
- ・非カーボン系ナノチューブの創製とその応用展開 (物材機構・フェロー) 板東義雄

招待講演

- ・有機・金属ナノ粒子ハイブリッドの新展開—エネルギー・情報関連素材 (山口東理大基礎工・教授) 戸嶋直樹
- ・無機材料とのハイブリッドによるエポキシ樹脂の高機能化 (関西大工・教授) 越智光一
- ・生理活性物質を固定化したポリマーグラフト化ナノ粒子の合成と特性 (新潟大院自然科学・教授) 坪川紀夫
- ・高分子エキゾチック複合材料 (神戸大工・教授) 西野 孝
- ・先端医学と生命機能無機材料 (仮題) (東工大院理工・教授) 田中順三
- ・複合無機化学的手法によるナノフォトセラミックス (東北大多元研・教授) 垣花真人
- ・テラヘルツ技術の現状とテラヘルツ光学コンポーネントの開発 (仮題) (村田製作所研究開発セ) 藤井高志
- ・サイアロン蛍光体の開発と白色 LED への応用 (物材機構) 広崎尚登

3.2.2 バイオ系 (3月28日・29日開催)

特別基調講演

バイオ産業の展望と協和発酵での取り組み (協和発酵・相談役) 平田 正

T7. グリーンバイオ (ポスター発表のみ募集)

協賛：日本化学会生体機能関連化学部会
日本化学会バイオテクノロジー部会

A. バイオコンバージョン、B. バイオマス・バイオポリマー、C. その他

セッションオーガナイザー：大橋武久 (カネカ顧問)、鴻池敏郎 (塩野義製薬生産技術研・製薬研究部長)、福居俊昭 (東工大院生命理工・准教授)、須貝 威 (慶應大理工・准教授)

グリーンケミストリーは自然との共存共栄で実現する経済発展と質的に豊かな生活を構築していく上で重要、不可欠の技術である。本技術は21世紀の課題の重要なポイントと認識されている。

グリーンバイオケミストリーはグリーンケミストリーの重要技術をバイオテクノロジーで構築していくことが期待されている。

本セッションでは A. バイオコンバージョン、B. バイオマス利用・バイオポリマーなどの各重要技術の現状や展開につき基調講演、招待講演、依頼講演やポスター発表で

紹介、討論する。

これら技術はいずれも、カーボンニュートラル、省エネルギー、地球温暖化防止、廃棄物削減、環境汚染防止、健康、安全、QOL向上、創薬などに寄与するものであり産官学での技術構築が望まれる。

基調講演

- ・試験管内でタンパク質を作る：技術開発とタンパク質生物学への応用に向けた試み（愛媛大/愛媛大無細胞生命科学工学研究セ・理事/センター長）遠藤弥重太

招待講演

- ・天然物合成に役立つ酵素反応（東大院薬・教授）福山 透
- ・化学企業でのバイオコンバージョンの活用と展望（カネカ・取締役常務執行役員）高橋里美
- ・有機金属化学から生体触媒への道（立教大理・名誉教授）堀内 昭
- ・有機合成化学で糖タンパク質の動態を観る（理研・主任研究員）伊藤幸成
- ・有機物代謝から電流を取り出す微生物燃料電池ができること（広島大院先端・准教授）柿菌俊英
- ・廃木材からのバイオエタノールの製造（バイオエタノール・ジャパン・関西・代表取締役社長）金子誠二
- ・バイオプラスチックの新展開（阪大院工・教授）宇山 浩
- ・バイオポリマーの高機能化と電子機器への利用（日本電気ナノエレクトロニクス研・主席研究員）位地正年

T8. フロンティアバイオ（ポスター発表のみ募集）

協賛：日本化学会生体機能関連化学部会
日本化学会バイオテクノロジー部会

A. ナノバイオ・バイオ計測、B. バイオマテリアル・先端医工学、C. その他

セッションオーガナイザー：三原久和（東大院生命理工・教授）、秋吉一成（東医歯大生材研・教授）、磯部直彦（住友化学技術・経営企画室・担当部長）、高柳輝夫（第一三共・監査役）、渡邊英一（東大院工・産学官連携研究員）

ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合領域である、ナノバイオテクノロジーの研究開発が盛んになってきた。事業化に関しても本分野はかなり有望なターゲットである。この分野における我が国の基礎研究は世界的にも高いレベルにあり、その応用や産業化を考える時期が到来したといえる。

本セッションでは、この研究分野の第一線でご活躍の方々の基調講演、招待講演および依頼講演（企業）をもとに、ナノバイオの研究開発と産業化について、その現状と将来を議論できる場を提供する。また、一般講演（ポスター発表のみ）では、企業や大学等からの多くの発表を期待している。

基調講演

- ・科学技術政策と産学連携によるイノベーション（仮題）（京大院薬・客員教授）清水一治

招待講演

- ・膜超分子モーター研究のイノベーションを目指すナノサイエンス（阪学産研・教授）野地博行
- ・細胞内分子動態計測への挑戦—生体適合型フェムトセカ

- ・ンドレーザー分子メスの開発（京大院農・教授）植田充美
- ・細胞シート工学による再生医療の創出（東京女子医大先端生命医科学研・教授/研究所長）岡野光夫
- ・先端医療を具現化するバイオマテリアル・DDS技術（京大再生医科学研・教授）田畑泰彦

上記講演のほか旭化成メディカル、資生堂、ビタミンC60 バイオリサーチ、三菱レイヨンからの依頼講演を予定

4 講演予稿集

4.1 発行日

平成20年3月12日（予定）

※ CD-ROM・冊子・WEB すべて

4.2 発行形式

CD-ROM

2枚組での発行を予定。参加登録費に含みます（入会準備学部学生は除く）。

冊子

第I分冊・第II分冊での発行を予定。収録内容は次項目を参照して下さい。参加登録費には含まれないので別途申込が必要です。

WEB

参加予約申込をし、期間内にお支払をされた方のみ春季年会ウェブサイトにて閲覧可能です。

4.3 収録内容

第I分冊

1. 化学教育・化学史、2～4. 物理化学、5. 無機化学、6. 錯体化学・有機金属化学、11. 分析化学、13. 触媒、14. コロイド・界面化学、15. 材料化学、16. 材料の機能、17. 材料の応用、19. エネルギー、20. 環境・グリーンケミストリー、地球・宇宙化学、21. 理論化学・情報化学・計算化学、T1～T6. アドバンスト・テクノロジー・プログラム（材料系）の各部門の一般講演および関連の特別企画講演の予稿。特別講演の予稿。研究発表者索引。講演プログラム*

第II分冊

7～8. 有機化学、9. 天然物化学、10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー、12. 高分子、18. 資源利用化学、22. 有機結晶、T7～T8. アドバンスト・テクノロジー・プログラム（バイオ系）の各部門の一般講演および関連の特別企画講演の予稿。特別講演の予稿。研究発表者索引。講演プログラム*

*講演プログラムは化学と工業3月号掲載のもの

4.4 特許

講演予稿集をもって特許における公知日とされる方は、発行日以降権利が6ヵ月保留されることとなります。

特許を出願する際に必要な発表証明につきましては下記URLをご参照下さい。

<http://csj.jp/news/happyo-syomei.html>

平成12年よりインターネットでの公開内容も研究内容の公知に当たることになりました。春季年会での講演申込内容の公開時期については1.13 講演申込内容の公表を確認して下さい。

4.5 著作権

講演予稿集に記載された内容に関する著作権は、日本化学会に帰属するものとします。したがって本会が必要と認めるときは転載し、また外部からの引用の申請があったときは本会において検討のうえ許可することとします。

5 参加登録

本年会の参加登録の概要は以下の予定です。詳細は化学と工業1月号に掲載します。

昨年より実施している「入会準備学部学生」(研究発表を行わない大学の学部および高等専門学校の学生を対象とした割引制度。予約申込は行わず当日登録のみ。参加登録費に講演予稿集 CD-ROM は含まない) を今年度も実施いたします。

5.1 申込期間

平成20年2月1日～27日17時

※参加費等の支払い締切日は平成20年2月28日です。

5.2 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申込下さい。なおフォームを使用するにはパスワードが必要です(パスワード:nenkai88)。

5.3 参加登録費ほか

5.3.1 参加登録費 (講演予稿集 CD-ROM を含む)

会員区分	予約	当日
正会員	12,000円	14,500円
正会員割引*1	9,500円	9,500円
学生会員	4,000円	5,500円
学生会員割引*2	3,500円	3,500円
教育会員	5,000円	5,000円
教育会員割引*3	5,000円	5,000円
ATP 講演者	12,000円	14,500円
非会員	24,000円	25,500円
入会準備学部学生*4	—	2,000円

*1…満60歳以上で有給の職に就いていない方で、申請をした方。

*2…学部入学3年以内の方で、申請をした方。

*3…化学と教育を購読する学生。

*4…研究発表を行わない非会員(未入会)の大学の学部学生および高等専門学校の学生が対象。ただし、参加登録費に講演予稿集 CD-ROM は含まない。

5.3.2 追加講演予稿集代

参加登録(講演予稿集 CD-ROM を含む)とは別にお申込下さい。なお、第I分冊・第II分冊は数に限りがありますのであらかじめご了承下さい。

内容	予約	当日
講演予稿集(第I分冊)	5,000円	6,000円
講演予稿集(第II分冊)	5,000円	6,000円
講演予稿集(CD-ROM)	10,000円	10,000円

※価格はいずれも送料を含みます。

5.4 宿泊・交通について

本実行委員会では、宿泊・旅行等の斡旋はいたしませんので、各自の責任において手配して下さい。

春休みの旅行シーズンでもありますので、早めの準備をお勧めします。

6 懇親会

6.1 日時

平成20年3月27日18時

6.2 会場

第88春季年会会場もしくは近辺の会場を予定

6.3 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申込下さい。なおフォームを使用するにはパスワードが必要です(パスワード:nenkai88)。懇親会へのみの申込も可能です。

7 付設展示会

付設展示会への出展受付業務は化学工業日報社に委託しました。出展をご希望されるお客様は下記までお問合せ下さい。

化学工業日報社 事業局

〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町 3-16-8

TEL: 03-3663-7931 FAX: 03-3663-2330

E-mail: n_doutsu@chemicaldaily.co.jp

URL: <http://www.chemicaldaily.co.jp/ent/>

第 88 春季年会 (2008)「優秀講演賞 (産業)」受賞候補者の募集について

産学交流委員会
委員長 八浪 哲二

日本化学会産学交流委員会では、「講演奨励賞」にかえて平成 20 年度より「優秀講演賞 (産業)」の表彰を行います。来る平成 20 年 3 月 26 日 (水)～30 日 (日)、立教大学池袋キャンパス (東京都豊島区西池袋) で開催される標記年会においても、特に優れた講演に対し下記要領で「優秀講演賞 (産業)」を授与いたしますので、奮ってご応募下さい。

本賞は、平成 8 年度開催の第 72 春季年会から昨年度までは「講演奨励賞」の名前で授与していたもので、本年度より名称を変更したものです。選考の対象は、これまでどおり、産学の研究者を問わず、しかも、産業に対して、現在または将来にわたり、寄与すると期待される基礎的、または応用的な研究、いわゆる「目的基礎研究」に対して、「産業的視点により」授与するものです。

なお、本賞の受賞には、従来どおり、講演申込時に「優秀講演賞 (産業)」受賞の審査対象を希望する旨の申請が必要となりますので、ご注意下さい。

●選考範囲：

12. 高分子、15. 材料化学、16. 材料の機能、17. 材料の応用、18. 資源利用化学の A 講演および B 講演ならびに Advanced Technology Program (ATP) の C 講演および D 講演

●選考方法：

産学交流委員会委員及び委員より推薦され委嘱された選考委員が年会に出席・聴講するとともに、座長の意見も参考にして産学交流委員会シンポジウム分科会で選考、産学交流委員会幹事会で決定する。

●選考基準：

① 12. 高分子、15. 材料化学、16. 材料の機能、17. 材料の応用、18. 資源利用化学部門産業に対して、現在または将来にわたり大いに寄与すると期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての優れた講演で、かつ今後、研究活動の一層の

発展の可能性を有すると期待されるもの。

② Advanced Technology Program (ATP) 部門

探索研究から製品開発の過程で「化学」に基づく技術がかかわり、それがブレークスルーや特徴ある製品性能を生み出すなど、製品開発に大いに寄与をもたらした優れた技術内容を含むもの。

●選考対象者：

講演申込時に 40 歳以下の若手講演発表者 (従来どおり、所属は産学を問わない)。

●授与の内容：

日本化学会会長名の賞状を授与。賞状は年会終了後、日本化学会から所属長を経て本人に送付する。後日、会誌「化学と工業」に授与された“テーマ”と“氏名”、“所属”を公表。

●授与件数：各部門それぞれ 20 件に 1 件の割合。

会員委員会からのお知らせ

〔日本化学会新入会者のご紹介〕

平成 19 年 8 月承認の本案新入会者は次のとおりです。

○個人正会員 (25 名)

安積 典子	宇都宮 聡	大井 悟	太田 初一	岡野 和宣	岡本 秀則	小田奈央子	亀川 展幸	川本 圭一
北山慎一郎	日下 良	坂本 典保	田中 享	千葉 耕平	張 民芳	外村正一郎	中川 浩一	野村 涉
弘中 徹	藤田 達也	保木 邦仁	森山 正樹	山田 健一	野田 文好	匿名 1 名		

○学生会員 (39 名)

芦崎 瑞恵	芦田ゆう佳	稲葉 倫明	伊森洋一郎	上松 愛	大澤 勇太	大山 秀樹	尾形 和樹	斧 大介
小保内 武	海藤 真広	笠井 誠司	唐澤 隆一	金 錦姫	木村 慶輔	桑嶋 祐己	五井 皓一	小松原充夫
坂口あゆみ	島本 圭	嶋脇 大恵	首藤 礼	鈴木彌生子	関 栄昭	高嶋 敏宏	鷹取 正基	永岡 靖貴
萩原 靖久	花崎 友昭	藤田 尊生	本田 裕樹	松本 英将	松本 雅史	峰岸 雄三	村上 直彰	湯本 拓也
横澤 裕也	E. Olasehinde	I. Oguntimehin						

〔会員訃報のお知らせ〕

2 氏の訃報に接しました。本会はここに謹んで哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りいたします。

小泉 光恵 大橋 邦夫

2008 年分個人会員会費等払い込みのお願い

会長 藤嶋 昭

2008 年分の個人会員会費等請求書を 10 月下旬～11 月上旬にお送り申し上げますので、お払い込み下さいますようお願い申し上げます。

問合先 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 社団法人日本化学会 総務部会員 G
電話(03)3292-6169 FAX(03)3292-6317 E-mail: member@chemistry.or.jp

2008 年分会費一覧

個人会費・購読会費

会員種別と会誌名	入会金 (円)	年額 (円)	
		国内	国外
個人正会員 (配布会報：月刊・化学と工業)	1,000	9,600	12,300
同上割引：60 歳以上で定職に就いていない方 (通称：シニア会員)	1,000	6,000	12,300
学生会員 (配布会報：月刊・化学と工業)	不要	6,000	12,300
同上割引：学部 3 年以下の方 (専攻科 1 年以下の高専生を含む) 配布会報：月刊・化学と教育を選択可能 (通称：ジュニア会員)	不要	3,000	12,300
教育会員 (配布会報：月刊・化学と教育)	不要	7,200	8,400
同上割引：学生の方 (通称：教育学生会員)	不要	4,800	8,400
化学と教育 (教育会員会報・月刊・個人正会員、学生会員が購読する場合)	—	5,400	6,000
Bull. Chem. Soc. Jpn. (BCSJ) (英文論文誌・月刊・希望会員に配布) 冊子体	—	10,200	15,000
BCSJ 冊子体 + Web 版 (BCSJ と CL 両誌の閲覧可)	—	15,200	—
Chem. Lett. (CL) (英文速報論文誌・月刊・希望会員に配布) 冊子体	—	7,200	9,600
CL 冊子体 + Web 版 (BCSJ と CL 両誌の閲覧可)	—	12,200	—
BCSJ + CL 冊子体 + Web 版 (Web 版購読会費の追加は不要)	—	17,400	—
BCSJ + CL Web 版のみ	—	10,000	—

法人正会員会費

法人正会員の年間会費は、1 口 25,000 円で 4 口 (100,000 円) 以上となっております。

法人正会員には、会誌・出版物を無償配布する、年会等行事へ参加する法人正会員所属の個人が本会非会員でも個人正会員参加費と同額にする、という特典があります。冊数、人数は会費口数により異なります。また 5 口以上ですと論文誌の Web 版が無料で閲覧することができます。詳細は下記にお問い合わせ下さい。

公共会員会費

公共会員 (学校、公共図書館、公共研究機関) の年間会費は、配布を受ける会誌により異なり、次のとおりとなっております。複数の会誌の配布を受ける場合はそれらの合計が年間会費となります。会誌はいずれも月刊です。

化学と工業 (個人正会員・学生会員用の会報)	24,000 円
化学と教育 (教育会員用の会報)	9,000 円
Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (英文論文誌) (Web 版閲覧可)	72,000 円
Chemistry Letters (CL) (英文速報論文誌) (Web 版閲覧可)	42,600 円

部会費

部会員種別		部会費 (年額 円)				
		コロイドおよび 界面化学部会	情報化学部会	生体機能関連 化学部会	バイオテクノ ロジー部会	有機結晶部会
正部会員	日本化学会会員	3,000	2,000	3,000	2,000	3,000
	日本化学会非会員	4,200	3,000	4,000	4,000	4,000
学生部会員	日本化学会会員	1,500	1,000	2,000	1,000	2,000
	日本化学会非会員	1,500	1,000	2,000	1,000	2,000
法人部会員 (1口)		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000

1. 会費、購読会費、部会費は、定款により前納となっております。
2. 既納の会費、購読会費、部会費は、定款によりいかなる理由があっても返還できないこととなっております。
3. 学生(部)会員は国内在住の高専、短大、大学、大学院の在学者に限ります。研究生は正(部)会員となります。
4. 教育会員は小・中・高等学校の教員またはこれに準ずる方です。大学の教員の場合は個人正会員となりますが、特に希望があれば教育会員となることができます。また、学生で「化学と教育」を配布会報として希望する場合は教育学生会員となることができます。
5. 教育会員が「化学と工業」を購読される場合は、個人正会員に会員種別を変更し、会報として「化学と工業」の配付を受け、「化学と教育」を購読することになります。
6. シニア会員割引、ジュニア会員割引は申請書の提出が必要となります。申請書は日本化学会ホームページ (<http://www.csj.jp/kaiin/kaihiwaribiki.pdf>) からプリントアウトして下さい。
7. 学生会員、教育学生会員は在学を証明する書類の提出が必要です。
8. 国外は船便送本の金額です。航空便利用の場合は下記にお問い合わせ下さい。
9. BCSJ、CLのWeb版個人利用は国内に限ります。また、利用場所は原則ご自宅になります。
10. 個人会員の入会申込は日本化学会ホームページ (<http://www.csj.jp/kaiin/admission.html>) から行って下さい。
11. 日本化学会会員が新たに部会に入会する場合は、郵便局にある郵便振替用紙に日本化学会会員番号、氏名、入会する部会名を記入し、上記部会費を郵便振替でご送金下さい。口座番号は00170-0-6058、加入者名は社団法人日本化学会です。日本化学会の会員番号が部会の会員番号になります。
12. 日本化学会には入会せずに部会のみ入会される場合は、下記にお問い合わせ下さい。
13. 法人正会員、公共会員、法人部会員の入会申込書は下記にご請求下さい。

問合先 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 社団法人日本化学会 総務部会員 G
電話(03)3292-6169 FAX(03)3292-6317 E-mail: member@chemistry.or.jp

本部事務局、化学情報センター休館のお知らせ

事務局長

来る10月26日(金)は、本部職員慰安旅行のため、事務局、化学情報センターは休館となりますのでお知らせいたします。

「化学と教育」誌 目次紹介と購読方法

化教誌編集委員会

1. 目次紹介 (第55巻第10号)

ヘッドライン：課外活動を通じた化学教育の実践

教育としての化学課外活動……………小出 力
 部活動(自然科学部)を通しての化学教育の試み
 —福井地区の高等学校(公立校)の実践報告—
 ………………瀬戸 良平
 生徒を育てる人の輪とサイエンス—金沢地区の高等学校
 (私立校)の実践報告— ………………四ヶ浦 弘
 テーマ増殖型課外活動の取り組みについて—兵庫地区の
 高等学校(公立校)の実践報告—……………高橋 直久
 大和川を題材とした理科クラブの活動を通じた科学教育
 —大阪地区の高等学校(公立校)の実践報告—
 ………………平井 俊男
 膳所高校化学班における化学教育の実践……………村田 厚子
 ちょっとやってみようかな、科学—兵庫地区の高等学校
 (私立校)の実践報告— ………………米沢 剛至
 環境教育を意識したクラブ活動の取り組み
 —大阪地区の中学校高等学校(私立校)の実践報告—
 ………………小西 弘子・岡田 絵里
 被爆地広島と出会って疑問解明が一つ一つ実験になった
 この5年—奈良地区の中学校高等学校(私立校)の実
 践報告—……………工藤 博幸
 身近な不思議を科学する—大阪地区の中学校(公立校)
 の実践報告—……………村上 幸子
 子どもたちの興味・関心をひく実験・観察の研究—兵庫

地区の小学校(公立校)の実践報告—……………疋田 直子
 3Rを中心とした環境教育—富山地区の小学校(公立校)
 の実践報告—……………山崎 民子
 講座：周期表を読む1—ハロゲン—3 ………………立川真理子
 講座：周期表を読む2—炭素、ケイ素など—1
 ………………佐々木道子・武田 敬
 レーダー、化学実験虎の巻、定番化学実験、投稿論文、ほか。

2. 購読方法

〔個人〕

- 1) 日本化学会会員の方は、会員番号、氏名、連絡先を明記の上、購読料(年間5,400円)を添えて下記宛にお申し込み下さい。
- 2) 化学または化学工業に関係のある学校教育に従事する方で購読希望の方は、教育会員(年間会費7,200円)として入会されますと「化学と教育」誌の無料配布が受けられます。また教育会員で学生の方は学生割引で年間会費が4,800円です。入会申込書は下記宛ご請求下さい。

〔団体〕

学校、図書館、官公庁等、団体として購読することもできます。公共会員(年間9,000円)に入会されますと無料配布が受けられます。入会申込書は下記宛ご請求下さい。
 申込先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
 日本化学会会員係 電話(03)3292-6169

会員から “充電電池” という言葉は認められるか?

商業メディアで二次電池または蓄電池を表すのに“充電電池”なる言葉が使われている。約10年前、これに対する警告を本欄に出したが¹⁾、個人的な賛意以外には反応はなかった。その後、電池に関するニュースの増加に伴って、“充電電池”の頻度も増えたので、小生の購読する新聞社2社に問題提起したが無視されたままである。一方、電気化学会関西支部の、ある会合で本件を発言したところ、それは業界の問題では、との意見があったので、(社)電池工業会に書面で問題提起したが、回答は「明らかに消費者に対して誤解を与えるものでない限り」「取り上げて議論する立場にはありません」「消費者の方に正しく理解していただくためには、時代の流れや社会の変化にも適切に対応していく必要もあると考えます」というものであった。これでは、むしろ時代迎合形ともとれ、反論をしておいたが、有力メーカーの中には“充電電池”派もあるようだ。实用新案登録公報に

も使用されている例がある²⁾。

しかし、メディアの造語が各方面からの指摘で修正される例もある。化学関係では“環境ホルモン”が専門家の指摘で使われなくなったのはよかった。科学技術用語ではないが、経済欄の用語、社会面の法律や犯罪に関する言葉では、普通の人では区別しにくいような言葉がよく使われている。これは法規や定義に従った言葉を正確に理解してもらおうという意向が非・理科系の記者たちにあるからかもしれない。

言葉は生き物であり時代とともに変化してきた。新しい事物には当然新しい名前が必要である。しかし、日本語には漢字を自在に組み合わせる造語できるという特徴があるためか、日本人は奇を衒って言葉を弄り過ぎるようである。毎年、メディアに現れた新しい言葉や表現の番付が発表されるが、このようなことは外国にもあるのだろうか？

1) 化学と工業 1997, 50, 868.

2) 实用新案登録公報, 第2521966号, 充電電池の充電装置.

〔岡田和夫(電気化学会関西支部顧問)〕